抄録 Aquatics (Vol.10, No.3, 1988)

Weed Potential of Cone-Spur Bladderwort

Utricularia biflora (John R. Cassani)

フロリダ中に広がっているタヌキモの一種 *U. biflora* Lam. (*U. pumila* Walt. と同義) はしばしば水面にマットを形成する。pH4.6から7.0という酸性の水体を好むとされているが、筆者は pH7.7-8.6の範囲にある都市部の水路に密生しているのを観察しており、低い pH が必ずしも必要というわけではなく、様々な生育場所によく適応しているといえる。みかけは繊細であるが、ほんの少量でもボートのスクリューを止めてしまう。水面にマットを形成するような場合には管理が必要である。夏の大雨によって植物が時折消えてしまうので、大雨が自然の抑制効果を持っている。除草剤を散布する計画にこの大雨を利用できるかも知れない。一緒に生育しているシャジクモやフラスコモに比べ、冬季の低温と短い日長に感受性が高く、23°C以下では害草となることはない。

Publicly Funded Aquatic Management Operations in Florida (Brian V. Nelson and J. Michael Dupes)

フロリダの公共の水域における水生植物管理の多くは水生植物共同制御計画 (Cooperative Aquatic Plant Control Program) と水生植物制御計画州基金 (State Funding for Aquatic Plant Control Program) という2つの計画によって行われている。公的な船着場のある航路における作業は通常前者によって行われる。これには適合しないが、地区レベルで公的な利益のために管理される水体は州基金による計画に適格する。それぞれの計画により制御された植生面積、用いられた除草剤の量、種別の総費用そして防除計画のために使われた州の公費が7つの表で示されている。1984年から1987年まで毎年約1千2百万ドルが使われ、その用途の多くが除草剤であることがわかる。

Florida's Water Management: A Humid Histroy (Mike Bodle)

フロリダにおける排水と干拓の入植以来の歴史が詳細に述べられている。

Successful Biocontrol of Water Hyacinth: A Documented Example (Kim H. Haag and Ted D. Center)

ホテイアオイの侵入が減少傾向にあるかどうか、そしてその原因は何であるのかを、1986年と1988年の2年間にわたり、天候、水質、植物体の組成そして天敵昆虫の量と生態の間の関係に着目して調べた。その結果、マイナーズロッジ池では天敵昆虫による食害にウチワゼニグサによる被陰が加わってホテイアオイの現存量が大きく減少したことがわかった。

Haller's Historical Highlights (Bill Haller)

効果的な除草剤が無かったことから、以前にはホテイアオイよりも問題となっていたツルノゲイトウ属のアリゲーター草に対する1960年代からの除草の歴史が書かれている。1965年にオルテガ川に導入された260匹の天敵昆虫であるハムシが功を奏し、今では1960年当時と比べてフロリダでは問題が無くなっているという。

Water Hyacinth Biocontrol: A Case History (Mike Bodle)

除草剤を散布していない池や散布を中止した池でホテイアオイの生育が悪くなるという観察から、その原因として天敵昆虫のゾウムシあるいは菌類による影響が考えられた。生物制御は効果が現われるまでに時間を要するが持続的である。除草剤散布と生物制御の両方を組み合わせれば、効果的で費用のかからない制御が可能となる。(国井秀伸)